

商業教育支部だより

2012. 1. 31

第68号

愛媛県高等学校教材センター商業教育支部

松山市旭町 松山商業高等学校内

編集 商業教育支部
事務局
印刷 川邊印刷(株)
(941-4586)

視聴覚教材について思うこと

愛媛県立大洲高等学校 教諭 松 盛 敦

私は教員生活10年間で商業科や普通科、分校などいろいろな種類の学校を経験させていただいた。様々なタイプの生徒と一緒に商業を学ぶなかで、授業においていかに視聴覚機器や教材を効果的に利用し生かしていくかは今後の課題となっている。生徒が授業以外でプレゼンテーションを活用する機会が増えており、商業の教員として授業を通してプレゼンテーション能力の更なる向上に取り組んでいきたいと考えている。

私は今年の8月、徳島県で行われた四国高等学校生徒商業研究・意見体験発表大会に副顧問として参加した。私は17年前の高校生のとき経済調査部に所属し、商業研究・意見体験発表で全国大会に出場したことがある。模造紙に内容をまとめ、OHPとスライドを使用し発表を行ったと記憶している。OHPの作成からレイアウトの構成・修正を行い、スライド写真の選定や撮り直しなど学校に遅くまで残ってアナログ的な作業でプレゼンテーションの準備をしていた。しかし現在はプレゼンテーションソフトを駆使し、プロジェクターを2台使って発表を行っている学校がほとんどであった。デジタル機器の向上により、記録や編集が容易にでき、それらを使用した見応えのあるプレゼンテーションが完成していることに、各県代表の発表を見ながらただ驚くしかなかった。情報機器やプレゼンテーションソフトの機能が充実してきている現在、発表の仕方なども大きく変わり、特に研究のスケールが比較できないほど大きくなっていると感じた。また、先生方の指導もあり、四国大会に参加しているどの生徒も高いプレゼンテーション能力とマナーを身につけていると感じる大会であった。

私はプレゼンテーションについての授業を行う場合、はじめにプレゼンテーションソフトの機能を説明し、できるだけいろいろな機能を使用した作品を作成させている。そして、発表会においては、相互評価で良いところや悪いところを指摘し合い、効果的なプレゼンテーションとはどのようなものかを話し合っている。機能を多く使ったものが、必ずしも見やすく聞きやすいものではないことに気付かせるようにしている。そのような指導を繰り返した結果、文化祭での発表やホームルームでの発表時に生かされているようだ。今後も少ない授業の中で効果的にプレゼンテーション能力を身につけさせる方法を模索し、商業科の先生方と邁進していきたい。

最後に現在の視聴覚教材について、16mmやビデオテープが中心であり、デジタル機器が発達し、アナログ機器が衰退している今日、教材が古いままではなかなか活用しにくい部分がある。是非デジタル化を進めていただきたいと思います。

視聴覚教材に想うこと・・・英会話を指導して

愛媛県立野村高等学校 教諭 行 村 眞 芳

数年前から「ビジネス基礎」を担当している。第5章「外国人とのコミュニケーション」を学習する際、生徒の前で英語を発音するのに私自身とまどいがあった。単にCDやTapeを聞かせるだけでは十分な指導はできない。そこで一念発起して、まず私自身が英語を聴くことにした。「聴き取れば、発音もできる。」と考えラジオ講座等を聴くことにした。以前と違ってインターネットを利用すれば、時間に拘束されず、1週間分を好きなときに好きなだけ聴くことができる。何と便利な時代であろう。やる気さえあれば安価なテキスト代だけで一流の講座を受講することができる。怠け者の小生でも教材研究の一環として、しなければならない状況になってしまうと、おのずと続けざるを得ない。初めて1年間継続することができた。

そんな折、教材センター商業支部の教材一覧で英会話のVTRを見つけた。約20年前のものではあるが、オーディオ面のみならずビジュアル面からも非常に効果的なものであった。この教材は各Lessonが①Skit I ②重要表現③Skit II ④語句⑤役割練習⑥Skit IIIに構成(10分間)されている。授業の最初の導入に使用した。Video-Tape(VHS)10巻のうち4巻までしか利用できなかったが、Skitの雰囲気伝えるには挿絵や写真よりも実際の映像の方がはるかに効果的であった。内容はやや古めかしいものもあったが、基本的には問題はなかった。

書物による学習は、本文(英語)を何度も音読すると学習効果がアップする。その際音源(CD等)があればより効果的である。挿絵や写真があるとその状況を思い浮かべやすい。さらに映像や動画(DVD等)があると学習効果は抜群だ。

英語の教員とALTの協力を得て、教科書の全Skitを録音した。自然なスピードで会話してもらった。「早すぎてあまり聞き取れない」という生徒が最初は多かった。しかし、繰り返しTapeを聴かせた。テストにもリスニング問題として出題した。後で教科書の指導用のCDを聴かせると「中学校の英語みたい」という意見があった。親しみのある教材を繰り返し聞かせることでより効果があったようである。

さらに各Skitを実演させることにした。まず日本語で、そして英語で。状況を理解し演劇を見ながら内容を理解させた。各自真剣に取り組めた。日本語を意識せず、英語で理解できるところまでが理想であろう。しかし指導者がそこまで達していないのであるから、それを生徒に期待するのはなかなか難しい。少しでもその域に達せられるよう努力を続けたい。昨年度から総合的な学習の時間において、「Let's listen and speak!」の講座を担当している。

現在はオーディオプレーヤーやDVD、パソコン等ビジュアル的な機器が普及している。最新の教材は単にオーディオ面(音声)だけでなく、ビジュアル面(写真、映像、動画)も駆使されていて、以前のものとは比べものにならないくらい充実している。指導者が理想的な領域に少しでも効果的に到達できるように、教材センターでもより良い教材の購入をぜひ検討してもらいたい。教育とはお金のかかるものであるが、一度得たものは容易くは奪われることはない。

◎ 2011年度新任の先生が2名おられます。先生方にご寄稿いただきました。

視聴覚教材について思うこと

愛媛県立新居浜南高等学校 教諭 山岡 清華

私が教員になって助言をいただいた言葉の中で「商業の教員は視聴覚教材を上手に使えて当たり前」という言葉が印象に残っている。大学時代、商業及び情報の免許状を取得するための講義で、プレゼンテーションソフトの使用方法や作成手順、画像や映像の挿入や編集等については、かなり力を入れて学習してきたつもりであった。しかし、初任者研修の一貫として行われたセンター研修により、自分の知識の無さを実感させられた。その研修では、プレゼンテーションソフトにおける効果的なアニメーションの設定、画像や映像の挿入、配色、文字の大きさなど様々な面から指導していただいた。また、見る対象や授業を受ける相手が誰かによって、内容を変更して作成することの重要性についても理解することができた。この研修を通して自分が今まで正しいと思っていたこと、生徒にとって「見やすい」「分かりやすい」と信じていたことが真実ではなかったことを知り、多くの先生方からの指導や助言、そして、実際に作成したプレゼンテーションを参考にさせていただき少しずつ改善を図った。

9月と11月に行われた授業研修会の中で行った研究授業では、自分が指導していただいた知識や技術を最大限に生かしてプレゼンテーションを作成した結果、研修校の先生方にお褒めの言葉をいただき、非常に嬉しかった。しかし、本校での研究授業をはじめ、授業研修会や初任者研修の中で強く言われた「視聴覚教材は後に残らない」ということは忘れてはならない。視聴覚教材は生徒の興味・関心を引き出すことが容易なだけでなく、取り入れることで授業全体に華やかさが出ることから、視聴覚教材の乱用をしてしまいがちだが、本当に必要な部分にだけ取り入れることが効果的な教育につながる。そこで、授業後に復習や確認させたい内容と重要事項については板書するなど、視聴覚教材と板書等との併用が重要である。また、ただ生徒に見せるだけで終わる受け身の授業ではなく、プレゼンテーションに準じた補助プリントを作成して、作業させながら視聴覚教材を活用することが生徒の学習意欲につながると考える。

今後、更なる情報化の進展により、視聴覚教材を効果的に取り入れることはもちろん、活用する能力が求められるだろう。私自身、日々の授業で自分の情報活用能力の無さや情報に関する知識の未熟さを感じるばかりである。これからは失敗を恐れず、いろいろな視聴覚教材の活用を試み、少しずつ知識をつけていきたい。例えば電子黒板を活用した授業展開をしてみたい。またスカイメニューについても、活用したことはあるが十分理解できていない部分もあり、今後は上手な活用方法を身につけて効果的に取り入れていきたい。生徒にとって望ましい教育を推進していくためにも、視聴覚教材を上手に取り入れた授業展開について日々研鑽を積んでいきたい。

視聴覚教材について思うこと

愛媛県立宇和島東高等学校 教諭 元 田 忠 男

私が高校生だった頃に、教材を提示する機器はOHPぐらいでした。大学を卒業して民間企業に就職し、その後、教員生活をスタートして驚いたのは、当然のようにパソコンやプロジェクタを利用して授業が展開されていることでした。情報化社会の進展の中で、学校現場でも情報化が進み、パソコンやプロジェクタなどのマルチメディア機器を使った視聴覚教材の導入が必須になっていることを強く感じました。初めて私が視聴覚教材を使った授業を参観させていただいたときは、教科書の内容に即した教材がスライドで映し出され、生徒同様に非常に興味・関心を持って授業に集中できたことを覚えています。

視聴覚教材は、視覚、聴覚に訴えかけることで学習内容の定着を強める効果があります。学校訪問での授業では、口頭での説明、板書をノートにとるといった授業のスタイルに加えて、視聴覚教材を活用することで生徒が興味・関心を持って学んでいる姿を参観することができ、私は視聴覚教材の有用性を実感しました。

この視聴覚教材の活用方法は、初任者研修の中でも学ばせていただきました。スライドの種類を明確にしたり、文字のサイズや色に注意したり、アニメーションの活用方法などを学び、今まで知らずに使用していた無駄な作業や、今後、必要となる知識・技術を知ることができたので、これからの授業に生かしていきたいと考えております。

私は、学校訪問や授業研修会で先生方の授業を参観させていただいたり、私自身の研究授業を行う中で視聴覚教材を活用する際の留意点を学びました。私が失敗したことの一つは、スライドに頼りすぎて板書がなくなり、別のスライドに切り換えたことで授業の重要な内容のスライドを、最後のまとめに見せることができなかつたことでした。スライドは印象に残るが消えてしまうものなので重要な内容は、後で生徒が見て分かるように板書に残すということを学ばせていただきました。もう一つは、スライドにする情報を精選することです。必要以上の画像や効果は、生徒の集中力を散漫にさせたり、何がポイントなのか分かりづらくしてしまうことを学びました。最後に、先生方の授業を参観させていただいて、最も参考になった点は、授業のポイントを明確に押さえることの重要性です。生徒へスライドを見せて視聴覚教材に注目させるときと、画面を黒く(または白く)した上で説明や板書をとらせるといった、視聴覚教材を使う際の的確な指示の出し方、メリハリのつけ方を学ばせていただき、私も実践していきたいと考えております。

このように、視聴覚教材について、その有効性と留意点、視聴覚教材を活用してのプレゼンテーション能力の向上等を、学ばせていただく機会があり大変勉強になりました。今後は、インターネットと視聴覚教材を活用した教材準備や授業展開を考えたり、視聴覚教材を活用する際のメリットやデメリットを把握した上での授業づくりを心がけようと思っています。なぜこの場面で視聴覚教材が必要なのかという目的を明確にして、生徒に分かりやすい授業を展開するための一つ的手段として、視聴覚教材の活用を図っていきます。

一 事務局より

- 1 ビデオテープ・DVDのコピー(ダビング)は著作権法によって禁止されています。
- 2 教材の活用方法や留意点さらに生徒の感想や先生方の御意見、御希望をお寄せくださいますようお願いいたします。
- 3 教材の運送費は往復とも使用校の負担となります。